

放射線教育

川俣町立川俣小学校

ホームページ掲載資料

# 平成28年度 放射線教育推進支援事業 実践協力校 実践記録



川俣町立川俣小学校

## 1 本校を取り巻く現状

### 【川俣町の状況】

- 県北地区唯一の避難指示解除準備区域を有する（山木屋地区）
  - ・ 平成29年3月末に避難指示解除を目標に
  - ・ 山木屋小学校 ⇒ 川俣南小学校に移転
  - ・ 山木屋中学校 ⇒ 川俣中学校に移転
  
- 飯館村の3つの小学校を町内に移転（草野・飯樋・白石）
  - ※ 平成29年3月31日に制限解除予定
  
- 本校での避難者
  - ・ 飯館村3名，浪江町2名，葛尾村1名，南相馬市1名

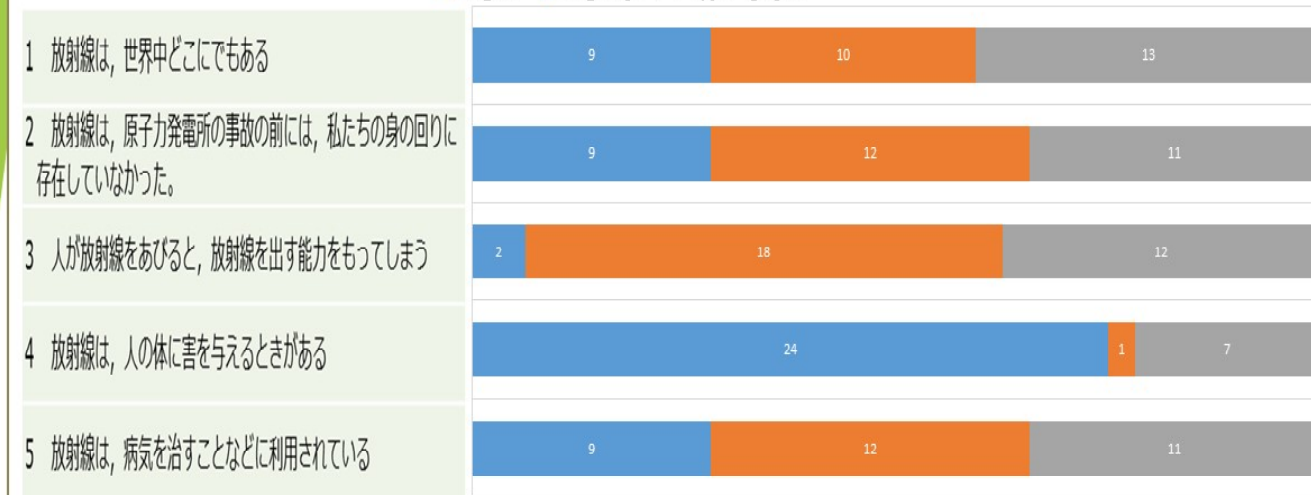
## 2 本校の取り組み

### (1) 本校児童の実態

#### ① アンケート調査結果（6年生32名・5月実施）

#### 放射線の性質に関するアンケート

■ 正しい ■ 正しくない ■ 分からない



#### ② アンケート結果から

- 放射線に関する知識・理解が定着していない
- アンケート対象の6年生は、震災当時は幼児（6歳）で記憶があいまい
- 震災・原発事故から5年が経過して、放射線に対する意識が低下している。（児童・保護者・教員）
- 放射線について学ぶ意義、必要感をもっていない

放射線教育について、  
改めて考え直すことが必要

## (2) 実践内容

### ① 放射線教育全体計画の見直し

#### 【学級活動】

放射線にかかわる内容を，子どもの日常生活と関連付けていくことで，子どもが自分事の問題としてとらえ，理解を深められるように

#### 【児童会活動】

エネルギーや環境問題との関連付け

#### 【道徳教育】

- ◇ 関連する道徳的価値の指導を重点的に
  - ・ 生命の尊さ
  - ・ 自然愛護
  - ・ 親切，思いやり
  - ・ 友情，信頼

#### 【各教科】

それぞれの教科の特質に応じて，放射線について学習したことが活用できるように，各学年の単元との関連付け

#### 【総合的な学習の時間】

放射線が身近に存在するという現状をとらえたうえで，地域の産業・自然・歴史・文化等との関連付け



- 学級活動・道徳教育・各教科・総合的な学習の時間での学習内容どうしの関連付けを図っていく
- 各教科においては，それぞれの教科の学習内容との関連を意識して指導計画を立てる



## ② 授業の実際

### 【学級活動・第1学年の実践から】（指導資料第5版参照）

#### ○ 授業のねらい

放射線に対する学びの入り口として、なぜ放射性物質が身近なところに存在するのかを知り、放射性物質に気を付けて生活しようとする。

#### ○ 授業のポイント

##### ＜紙芝居の活用＞ 「ふくろう先生の放射線教室」

除染情報プラザwebサイトからダウンロードして使用。3つの内容で構成されている。必要に応じて使い分けることができて便利。



### 【学級活動・第6学年の実践から】（指導資料第5版参照）

#### ○ 授業のねらい

身の回りにある放射線について知り、健康的な生活を送るために心掛けることは何かを、子どもと保護者がともに考える。

#### ○ 授業のポイント

##### ＜授業参観で放射線教育を実施＞

身の回りにある放射線について改めて学習し直すとともに、保護者についても放射線に対する意識を高めてもらう。  
実際の指導の様子を見てもらうことで、放射線教育に対する共通理解を図る。



## 【社会科・第5学年の実践から】

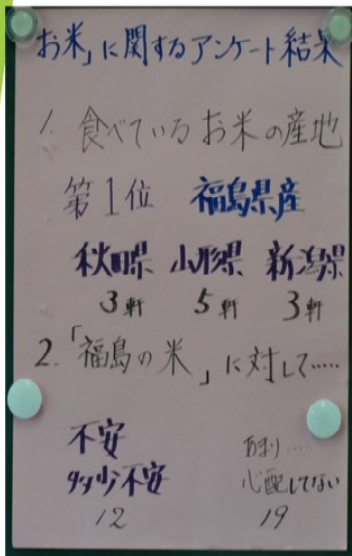
### ○ 授業のねらい

保護者の意識調査結果から、福島の米に対する保護者としての考え方を共有し、福島の米の安全・安心に向けた様々な取り組みを理解する。

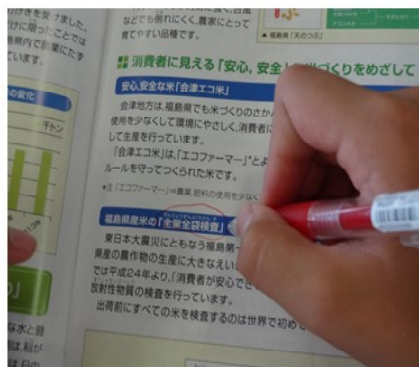
### ○ 授業のポイント

#### ＜保護者の意識調査結果を授業に反映＞

福島県産米に対する保護者の考えを授業で取りあげ、除染作業や全量全袋検査など福島県で行われている安全・安心な米作りについての取り組みについて理解を深める



県産米に対する保護者の不安は、何に対する不安なのかを考える。



安全・安心な米を提供するための取り組みについて学習する。



## 【社会科・第4学年の実践から】

### ○ 授業のねらい

震災や放射能汚染による様々な被害を乗り越えながら、県内の産業を支えている人たちの苦労や努力などについて話し合う。

### ○ 授業のポイント

#### ＜県内産業産出額のデータを活用＞

震災以降県内の各種産業が現在回復傾向にあるのはなぜか、近年の県内産業産出額のデータをもととして考え、産業を支える人々の取り組みについて理解を深める



## 【家庭科・第6学年の実践から】

### ○ 授業のねらい

身近で安全・安心な食品を使って、栄養バランスのよい1食分の献立を考えることができる。

### ○ 授業のポイント

#### ＜身近な施設・設備の活用＞

家庭菜園等で収穫された市場に流通しない食材については、食品放射能検査所で検査を受けられることを知り、将来にわたって健康に過ごすための食材の選び方について理解を深める。

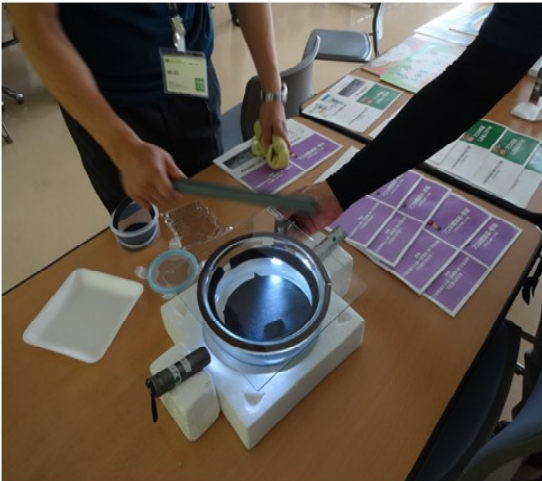


### ③ 職員研修の実施

#### 【除染情報プラザとの連携】

- 講義「放射線を使った実験例」

鳥取大学生命機能研究支援センター 北実先生



- 放射線に関する基礎的知識について
- 放射線について科学的に考えられる力を育てることが大切
- ゴム風船を使ったラドンの採取実験の紹介

## 3 今後に向けて

- それぞれの教科の学習内容と放射線教育との関連を意識した授業実践
- 学級活動・道徳教育・各教科・総合的な学習の時間で学んだ放射線に関する学習内容どうしをより関連付けた授業実践
- 学習内容の定着を図るだけでなく、科学的なものの見方・考え方が身につけられるように
- 廃炉作業が完了するその日まで、学校での放射線教育を継続していくこと



## 第4学年2組 社会科学学習指導案

日時：平成28年11月15日（火）5校時  
場所：4年2組教室 指導者：〇〇 〇〇

### 〈授業テーマ〉

福島県内の産業が震災以降落ち込んだものの、現在回復の兆しにあるのはどうしてなのか放射線との関連を図りながら、資料をもとに考えることができる授業。

### 1 単元名 「1 県の広がり」 8時間

### 2 単元の目標

- 自分たちの住む県の様子に関心を持ち、名称や位置、地形や産業、交通網などについて意欲的に調べている。自分たちの住む県の様子から、その特色を考えようとしている。  
(関心・意欲・態度)
- 自分たちの住む県の地理的位置、県の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。自分たちの県と他県との位置関係を考えたり、県の様子についてわかったことを相互に関連づけながら県の特色を考えたりして、適切に表現している。(思考・判断・表現)
- 地図や資料、インターネットなどを活用して必要な情報を集め、自分たちの県の地理的位置、47都道府県の名称と位置、県全体の地形や主な産業、交通網の様子や主な都市の位置を読み取っている。調べたことを、白地図や作品などにまとめている。(観察・資料活用の技能)
- 自分たちの県の地理的位置、47都道府県の名称と位置、県の地形や主な産業、交通網の様子や主な都市の位置を理解している。自分たちの県の特色について理解している。(知識・理解)

### 3 単元について

本小単元では、日本における自分たちの県や県内における自分たちの市町村の地理的位置、県全体の地形や主な産業、交通網の様子や主な都市の位置などに興味・関心をもたせながら、県の特色を考えることができるようにする。そのために、小単元を通して各種地図や白地図に多く触れるようにし、位置や様子などを具体的に捉えさせるようにする。そして、県の特色やよさについて具体的に考えることで、自分たちの住む県に対する誇りや愛情をもつようにしながら、地域社会の一員としての自覚を育てていきたい。

本学級の児童は、社会科の学習が好きであり、今まで行ってきた調べ学習など意欲をもって学習してきた。また、3年生までは町について調べてきたが、少しずつ視野が広がり、県内または47都道府県にも興味を持ち始め、名前や地理的位置も覚えようと頑張っている。しかし、まだ県内の地理的位置や地形、産業などについてはよくわかっていない状況である。さらには、東日本大震災や放射能汚染事故が起きた時はまだ幼稚園児であり、当時の様子についてうろ覚えのところもある。県内の人々がさまざまな被害にも負けず立ち上がり、現在に至っていることについてはニュースなどで目にしたり、家族から聞いたりしてわかっているが自分のこととして受け止められていない。

本時は、県の特色をまとめる時間であるが2時間扱いとし、前時に県内の産業マップをもとに今まで学習してきた地理的位置や地形、交通の様子、主な都市など福島県はどのような特色があるかを確認する。そして本時は、データをもとにして東日本大震災や放射能汚染事故などさまざまな被害により生産・消費が落ち込んだ産業は何か、また、それらの困難を乗り越え、現在では回復の兆しがあるもの、残念ながら今でも回復の兆しがないものについて知るとともに、県内の産業を支える人々の努力などについて話し合うようにしたい。

#### 4 指導計画（総時数8時間）

時	学習活動	評価規準
1	○自分たちの県や周囲の様子，交通の様子などについて確かめる。	○自分たちの住む県の様子について話し合い，学習問題を見いだそうとしている。 (思考・判断・表現)
2	○衛星写真や地勢図などから県内のどこにどのような地形が広がっているのか調べる。	○衛星写真と地勢図，断面図を見て県の地形を読み取り，白地図やノートにまとめている。(技能)
3	○土地利用図や写真などから県内の土地利用の特色を地形と結びつけて話し合う。	○県の土地利用の特色を地形と関連づけて考え，適切に発言したりノートに書いたりしている。 (思考・判断・表現)
4	○県内の主な市町村の名前，位置，人口などを調べ，白地図に整理する。	○県内における自分たちの市の位置や県内の主な都市の名称と位置を理解している。 (知識・理解)
5	○県内の主な道路や鉄道の広がりなど，陸，海，空の交通網の特色を話し合い，白地図に整理する。	○県の主な都市の位置や交通網の様子を理解している。(知識・理解)
6	○県内にどんな産業があるのか調べ，調べたことを産業マップの作品にする。	○県内の主な産業について，どこにどのようなものがあるかを調べて，産業マップに表現している。(思考・判断・表現)
7	○これまで調べてわかったことを地図に表したり，地形と土地利用のかかわりや交通と産業の関わりなどについて話し合ったりする。	○調べてわかったことを白地図にまとめている。 (技能) ○自分たちの県の特色について理解している。 (知識・理解)
8 本時	○福島県と放射線との関連について話し合う。	○自分たちの県と放射線との関連について理解している。(知識・理解)

#### 5 放射線教育との関連

東日本大震災直後に起きた放射能汚染事故をきっかけとして県内の産業はどのような影響を受け，今でも回復の兆しがないもの，少しずつ回復してきているものは何かなどについて近年の産業算出額のデータをもとに話し合い，産業を支える人たちの苦勞，努力などについて考えさせたい。

##### 活動1：学級活動

除染情報プラザから頂いている資料や紙芝居をもとに，放射線や除染に関する基礎的なことについて知る。

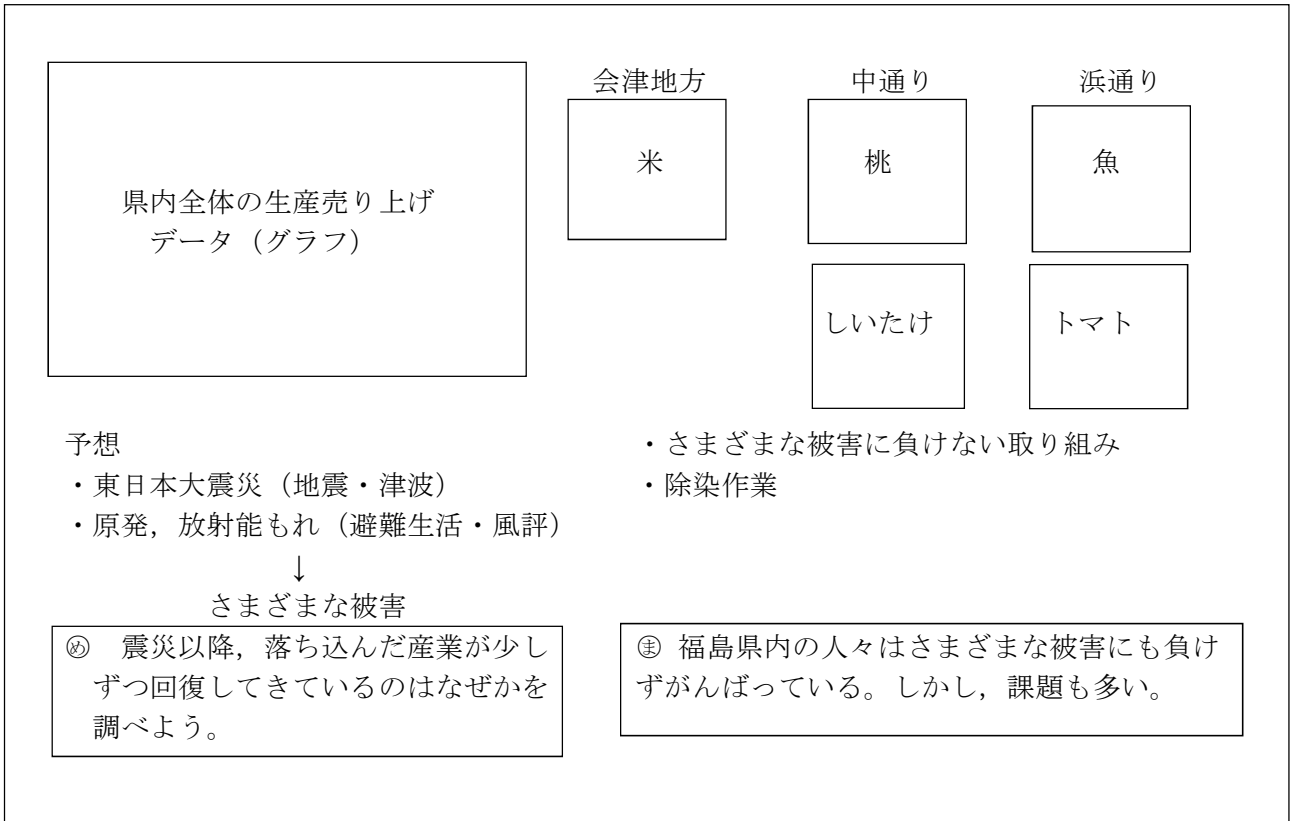
##### 活動2：道徳

思いやりを行動で【2－(2)思いやり，親切】

#### 6 本時の目標

近年の県内産業算出額のデータをもとに東日本大震災や放射能汚染事故によるさまざまな被害を乗り越えながら県内の産業を支えている人たちの苦勞や努力などについて話し合う。

7 板書計画





8 指導過程（8／8）

学習活動	時間	○指導上の留意点      ◆評価（方法）
<p>1 学習課題を持つ。</p> <p>(1) 福島県内の特色についてまとめたことをふり返る。</p> <p>(2) 県内の産業算出額のデータを見て話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災があった。</li> <li>・放射能汚染事故が起きた。</li> <li>・風評被害があった。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>㊦ 震災以降，落ち込んだ産業が少しずつ回復してきているのはなぜかを調べよう。</p> </div>	<p>1 0</p>	<p>○ 前時に行った福島県内の特色についてまとめたことを確認する。その際，産業マップについてもふれ，県内の産業について意識を持たせるようにする。</p> <p>○ ここ数年の県内産業算出額のデータ（グラフ）を提示し，2011年を境としたデータの変動について話し合うようにする。</p> <p>○ 震災や放射能汚染事故により，さまざまな被害や，生産が激減したことなどを確認するとともに，現在では少しずつではあるが回復の兆しにあることにも気づかせる。</p>
<p>2 主な産業の取り組みについて調べる。</p> <p>(1) 県内の主な産業について5つ取り上げ，現在の状況と取り組みについてグループごとに資料を使って調べる。</p> <p style="padding-left: 20px;">米，しいたけ，トマト 魚，桃</p>	<p>1 5</p>	<p>○ 会津地方，中通り，浜通りで震災以降影響を受けた産業（5つ）の資料をもとに，今までの取り組みや現在の状況についてグループごとに話し合い，ホワイトボードにまとめさせる。</p> <p>○ 各グループ1つの産業について調べるようにする。</p>
<p>(2) 調べたことを発表する。</p> <p>(3) 産業を支える人々について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな被害にも負けない生産者の取り組みを知る。</li> <li>・県内で行われている除染作業の様子を知る。</li> </ul>	<p>8</p> <p>5</p>	<p>○ グループごとにホワイトボードにまとめたことを発表させる。</p> <p>○ 写真やイラストなどで，産業を支える人々の取り組みについて知らせる。</p> <p>○ ホームページに載っていた他県に住んでいる方の福島県に対するイメージなどを伝え，未だに根強い問題があることに気づかせる。</p>
<p>3 まとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>福島県内の人々はさまざまな被害にも負けずがんばっている。しかし，課題も多い。</p> </div> <p>(1) 社会日記を書く。</p> <p>(2) 感想を発表する。</p> <p>(3) 次時の学習予告を聞く。</p>	<p>7</p>	<p>○ 本時のまとめをし，今日の学習でわかったことや考えたことなどをノートに書かせる。</p> <p>◆社会的事象への関心・意欲・態度</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自分たちの県と放射線との関連について理解している。（ノート，発言）</p> </div>

## 第5学年 社会科学学習指導案

日時：平成28年7月19日（火）3校時（5の2）

4校時（5の1）

場所：5年2組教室 指導者 ○○ ○○

〈授業テーマ〉①米の生産過程 ②消費者の不安 ③生産者の努力

保護者の意識調査結果から、福島の水に対する保護者としての考えを共有し、福島の水の安全・安心に向けてのさまざまな取組みを理解する授業

1 単元名 「1 くらしを支える食料生産」 4時間

2 単元の目標

- 我が国の農産物や畜産物の分布や土地利用の特色に関心をもち、意欲的に調べている。  
(関心・意欲・態度)
- 我が国の農産物や畜産物の主な産地について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。  
農産物や畜産物の主な産地と自然環境とを関連づけて、主な産地と自然環境が深いかわりをもって営まれていることを考え、適切に表現している。(思考・判断・表現)
- 地図や東経などの資料を活用して、我が国の農産物や畜産物の主な産地について必要な情報を集め、読み取っている。(観察・資料の活用)
- 我が国の農産物や畜産物の分布や土地利用の特色などを理解している。  
我が国の農業や水産業は国民の食糧を確保する重要な役割を果たしていることや、自然環境との深いかわりをもって営まれていることを理解している。(知識・理解)

3 単元について

本小単元では、各種統計等の資料や分布図を読み取ることにより、我が国の様子を概観し、そこに見られる大まかな特色を調べることができるようになっている。主食である米や野菜、果物や畜産物、水産物の産地の分布や土地利用の様子を理解することにより、既習の気候の特色の学習と関連させて考えることができるため、自然環境とのかかわりをもって営まれていることが理解できるようにさせたい。

本時は、日本全国の6月の米づくりの様子の写真から、大まかな農作業と産地による作業の違いなど、分かったことや考えたことを話し合う。さらに米の収穫量の資料から、収穫量が多い新潟県や東北、北海道が米の主な産地であることを理解させたい。

4 指導計画

時	主な学習活動	評価規準
1	○集めた米袋や農産物などの食料品のパンフレットを都道府県ごとに地図の上に貼り付けて、気づいたことや考えたことを発表し合う。	○自分たちの食生活を支えている食材の産地はどんなところか、学習課題や計画を考えて表現している。(思考・判断・表現)
2	○日本全国の6月の米作りの様子が分かる写真	○米作りは日本全国で行われているが特に

本時	や米の収穫量の資料から、米の産地について気づいたことや考えたことを出し合う。	東北地方や北海道が主要な産地であることを理解する。（知識・理解）
3	○米以外の農産物や畜産物の主な産地と特色を調べる。	○地図や統計などの資料を活用し、米以外の主な産地について必要な情報を集め読み取っている。（観察・資料の活用）
4	○これまでの学習をもとに、主な産地についてまとめる。 ・産地と地形や気候とのかかわり	○農産物の主な産地と自然環境とを関連づけて産地と自然環境が深いかかわりをもって営まれていることを考えて、適切に表現している。（思考・判断・表現）

### 5 放射線教育との関連

保護者の協力のもと「福島の米に対するアンケート」を実施し、結果を提示して気づいたことを話し合いながら、消費者のために「安全・安心なふくしまの米」を目指した取組として、国や福島県が努力していること「全量全袋検査」等を理解させたい。

### 6 本時の目標

米の収穫量の資料から、米の産地について気づいたことや考えたことを話し合う。

### 7 板書計画

㊦ 米の主な産地はどこか

○くらしの中で  
→米をよく食べる  
→水田で作られている

○水田の様子  
・水がはってある  
・苗が順序よく並んでいる

・広い四角の田や段々の田＝（棚田）  
・手作業や機械作業  
・沖縄だけ稲刈り＝暖かい気候

○米づくりのさかんな地域  
（資料集 P33 より）  
・新潟県          ・福島県も  
・北海道や東北・北陸地方がさかん

お家の人のアンケート結果

1 食べているお米の産地  
○〇県□人 ○〇県□人…

2 福島県産のお米についての考え  
・とても不安（ ）人…  
・不安だが、やむを得ず（ ）人…

○なぜ「不安」？

㊦ 福島県の取り組み

資料①  
土の除去

資料②  
全袋検査

資料③  
給食

㊦ 土地や気候を生かして、

① 米づくりは、日本の国土の半分以上で行われている。

② 主な産地は東北や北陸、北海道である。



8 指導過程（1 / 4）

学習活動	時間	○指導上の留意点 ◆評価（方法）
<p>○お米と自分の生活との関係は？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よく食べている</li> <li>（福島・山形・秋田・新潟のお米）</li> <li>・家の近くにも田んぼがある</li> </ul> <p>㊦ <b>米の主な産地はどこか？</b></p> <p>1 日本全国の、6月の水田の様子を見て気づいたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水がはってある</li> <li>・苗が並んでる</li> <li>・広い四角の田や棚田がある</li> <li>・沖縄では稲刈りをしている</li> <li>・手作業や機械での作業</li> </ul> <p>2 自分たちが食べているお米について、家族はどう思っているか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原発事故による放射能が心配</li> <li>・<u>大丈夫だって</u>言っているよ</li> <li>・まだ原発は残ってるなあ</li> </ul> <p>3 福島の取り組みについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ福島県では様々な取り組みをしているのか考えて書く。</li> <li>・安心なお米を出荷する</li> <li>・食べる人の体が心配だから</li> </ul> <p>4 まとめをする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の課題について、資料集をもとにまとめる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①米作りは、全国各地で行われ、日本の耕地面積の半分以上で作られている。</p> <p>②主な産地は東北・北陸・北海道である。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会日記を書く。</li> <li>・次時の学習予告を聞く。</li> </ul>	<p>5</p> <p>7</p> <p>5</p> <p>1 3</p> <p>7</p> <p>3</p> <p>5</p>	<p>○ 実際に食べているのは福島県やその周辺であるが、日本のどこで生産しているか、前時を想起する。</p> <p>○ 既習の、「土地の高・低」、「気候」を、米づくりにも生かしていることも確認する。</p> <p>○ 「田＝水田」「水田で作る稲＝水稲」という言葉を覚える。</p> <p>○ 保護者へのアンケート結果を提示し、不安があることを押さえ、どんなことが不安と感じているか想像して、児童の言葉で発言させる。</p> <p>○ 福島の取り組み等を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌の除染作業の様子（提示）</li> <li>・給食の食材の安心に向けた取り組み（提示）</li> <li>※ゲルマニウム半導体検出器（提示）</li> <li>・お米の全袋検査（資料集・小冊子）</li> </ul> <p>◆ 県の様々な取り組みが理解できたか。（ノート）</p> <p>○ お米の主な産地とともに、水田の面積は日本の国土のどのくらいかも調べさせる。</p> <p>○ 調べたことをもとにまとめる。</p> <p>○ 今日の学習で分かったことや考えたことなどをていねいに書かせる。</p>

## 第6学年 家庭科学習指導案

日時：平成28年11月15日（火）5校時

場所：6年教室 指導者：〇〇 〇〇

### <授業テーマ>

身近で安全・安心な食品を使って、

栄養バランスのよい1食分の献立を考えることができる授業

### 1 題材名 くふうしようおいしい食事

### 2 単元の目標

- 日常の食事に関心をもち、食事の役割を考えて食事を大切にしようとする。  
(家庭生活への関心・意欲・態度)
- 3つのグループの食品のそろった1食分の献立について考えたり、工夫したりすることができる。  
(生活を創意工夫する能力)
- 材料や目的に応じて、ゆでたりいためたりして簡単なおかずを作ることができる。  
(生活の技能)
- 栄養のバランスを中心に、1食分の献立の立て方について理解することができる。  
(家庭生活についての知識・理解)

### 3 題材について

本題材では、食品を組み合わせていろいろな料理ができることに気付き、バランスよく食品を組み合わせておかずとなる料理を考え、3つの食品グループのそろった具体的な1食分の献立を立てて実際に調理ができるようにすることをねらいとしている。新たな技能を身につけるのではなく、これまでにできるようになった料理を組み合わせることで、体に良い「食事」になることを理解できるようにしていく。

本学級は、家庭科の授業に対して好意的な児童が多く、実習にも意欲的に取り組んでいる。グループ活動の際には活発な児童がリードし、男女ともに互いに協力し合って活動することができている。しかし、友達を頼りにするあまり、自分で考えたり工夫したりすることを苦手とする児童が少なくない。実習においても、苦手な内容を避けて役割を分担する姿も見られるなど消極的な面も見られる。

指導に当たっては、学習内容が児童の日常生活で実践できるよう、児童一人一人が献立を考え、その中の一品を調理することとしたい。献立を立てる際には、主に栄養のバランスを中心として調和のよい食事について考えるようにする。その際、色どりや味のバランスについても気付くようにしていく。また、好みや季節、食材の費用や安全性等の観点についても大切に扱いたい。実際に調理する場面においては、調理台が限られているので、事前に調理内容を確認したり分担を決めたりして、効率よく調理ができるようにする。

本時は、前時に学習した献立の立て方のポイントを参考にしながら、中でも特に栄養バランスに気を付け、1食分の献立を考えていく。その際、料理に使う食材の選び方やその際のポイントについても触れ、児童にとって身近な食材を使った献立を立てられるようにし、日常生活でも実践できるようにしたい。

#### 4 指導計画（総時数7時間）

時	主な学習活動	評価規準
1	バランスのよい献立とはどんなものか調べ、献立の立て方について理解する。	【知・理】栄養のバランスを考えた1食分の献立の立て方について理解している。
2 本時	栄養バランスのとれた1食分の献立を考える。	【創意工夫】ご飯とみそ汁を中心とした、3つのグループの食品のそろった1食分の献立について考えたり、工夫したりしている。
3	自分で考えた献立について、栄養のバランスや調理方法、味付けに偏りがいないか見直す。	【創意工夫】材料や目的に応じたゆで方や炒め方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。
4	グループごとに具体的な調理計画を立てる。	【関・意・態】身近な食品を使っておかずを作ろうとしている。
5 6	調理計画に基づいて、自分で考えた献立の中から一品を選んで調理する。	【技能】材料や目的に応じ、ゆでたり炒めたりして調理している。
7	調理実習を振り返り、日常の食事をより楽しく、よりおいしくする工夫について考える。	【関・意・態】毎日の食事に関心を持ち、栄養を考えた食事のとり方や役割を考え、食事を大切にしようとしている。

#### 5 放射線教育との関連について

料理に使う食材を選ぶ際、市場に流通している食材は生産・流通の各段階で放射性物質のモニタリング検査を実施し、安全が確認されていることを確認する。また、自家農園や家庭菜園等で採れた流通ルートにのらない食材に関しては、自己判断で口にしない方がよいことや、川俣町内の食品放射能検査所で検査を受けることができるので、安全が確認されてから食べると安心することをおさえる。

#### 活動1：学級活動

除染情報プラザの資料（紙芝居・小冊子）をもとに、内部被ばくについて学習する。

#### 6 本時の目標

栄養バランスに気を付けた1食分の献立を考えることができる。



## 7 板書計画

献立作りの ポイント①	ポイント②	ポイント③	ポイント④	ポイント⑤
----------------	-------	-------	-------	-------

⑥ 自分で調理できる栄養バランスのよい献立を考えよう。

○ これまでにできるようになった料理

- ・ ごはん
- ・ みそ汁
- ・ おかず (                    )
- (                    )
- (                    )

↓

アレンジして

- ① 食品を変えて
- ② 調理方法を変えて
- ③ 味付けを変えて

児童の考えた献立

児童の考えた献立

エネルギーの もとになる	体のもとにな る	体の調子を 整える

○ 食材選びのポイント

- ・ 鮮度
- ・ 安全性
- ・ 値段
- ・ 季節・旬

食の安全性に関する資料

食品放射能検査所に関する資料

## 8 指導過程 (2/7)

学習活動	時間	○指導上の留意点 ◆評価 (方法)
<p>1 学習課題をつかむ。</p> <p>(1) 前時の学習内容を振り返り、献立を考える際のポイントについて確かめる。</p> <p>(2) 学習課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>① 自分で調理できる栄養バランスのよい献立を考えよう。</p> </div>	5	<p>○ おもに主食・汁物・主菜・副菜で構成されていること、3つの食品グループをバランス良く取り入れていることなどを確認する。</p>
<p>2 1食分の献立を考える。</p> <p>(1) これまでの調理経験を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご飯とみそ汁</li> <li>・ ゆで野菜のサラダ</li> <li>・ 朝食のおかずなど</li> </ul> <p>(2) ご飯とみそ汁を含んだ献立を考える。</p>	20	<p>○ これまでに経験した調理について振り返り、ご飯とみそ汁を取り入れた献立を考えることを確認する。</p> <p>○ 栄養バランスがとれていることを中心として、教科書に記載されている料理やこれまでに経験した料理をもとに考えるようにし、自分自身で調理のできる献立になるようにする。</p> <p>○ 同じメニューでも、食品や調理方法、味付けを変えてアレンジできることを知らせる。</p>
<p>3 栄養バランスを確かめる。</p> <p>(1) 考えた献立を紹介する。</p> <p>(2) 献立に使う食品を3つの食品グループに分ける。</p> <p>(3) 献立に使う食材の選び方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新鮮さ</li> <li>・ 安全性</li> <li>・ 金額</li> <li>・ 季節など</li> </ul>	15	<p>○ どんなことを意図した献立にしたのか、ポイントを説明できるようにする。</p> <p>○ 各自が考えた献立について、グループ内で栄養バランスが取れているか確かめる。</p> <p>○ 食材を選ぶ時のポイントについて話し合う。</p> <p>○ 市場に流通している食材については、放射線検査を受けていて安全であることをおさえ、市場で流通していない家庭菜園等で収穫した食材については、公民館等身近な場所で食品放射能検査が受けられることを気付かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆ ご飯とみそ汁を中心として、3つの食品グループの食品のそろった1食分の献立について考えている。(ワークシート・発言)</p> </div>
<p>4 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 本時のまとめをする。</p> <p>(2) 次時の予告をする。</p>	5	<p>○ 献立に使う食品が、3つの食品グループからバランスよく選ばれているのがよい献立である事をおさえる。</p> <p>○ 献立が栄養バランスだけではなく、調理方法や味付けについてもバランスが良いか見直すことを知らせる。</p>

エネルギーのもとになる	体のもとになる	体の調子を整える